



# ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ROTOBO

2024年(令和6年)12月25日号 No.1978

## 目次

■ノリリスク・ニッケル社の制裁対応の動き	1
■『ロシアNIS調査月報』2025年1月号のご案内	9
■トピックス	10
EU、第15次制裁パッケージを発表／10	
日ウクライナ経済合同会議、5年ぶりに開催／10	
日本、トルクメニスタンと租税条約締結／10	
プーチン大統領、総括会見／11	
ロシア、政策金利を据え置き／11	

## ノリリスク・ニッケル社の制裁対応の動き - 中国への銅精錬所移転計画 -

(一社) ROTOBO ロシアNIS経済研究所  
研究員 渡邊 光太郎

### はじめに

ノリリスク・ニッケル社は大掛かりな制裁対応を進めている。なんと、銅精錬のすべてと、ニッケル精錬の一部を中国に移転するというのだ。そう簡単な話ではないはずだが、11月のBloombergの報道によると、銅製錬所の計画は具体化しつつあるとのことだ。本稿ではノリリスク・ニッケル社の銅精錬所移転計画について解説する。

ノリリスク・ニッケル社は、ニッケル、銅、白金族(主にパラジウムとプラチナ)のメーカーとして知られる。日本の自動車産業にとって欠くことができないパラジウムの生産では、世界の40%を占める。また、電池材料として脚光を浴びるニッケルの生産量も多い。

ニッケルと白金族は供給者が限定される。また、ロシアのシェアが比較的高い。市場でのノリリスク・ニッケル社の存在感は大きい。

一方で、ノリリスク・ニッケル社の銅生産量は、多数の供給国がある中でシェアが2%程度と突出した存在ではない。銅は供給不安のリスクが高い金属ではなく、ロシアの銅生産の動向は日本ではあまり注目されない。しかし、ノリリスク・ニッケル社の銅生産は、パラジウムとプラチナの生産とリンクしている。ノリリスク・ニッケル社が銅製錬所を中国に移転すると、ロシアのパラジウム生産の約40%は中国に行くことになる。日本産業界にとって重要なパラジウムの供給体制に大きな変動をもたらす。